

## □ 総括報告

人を大切に地域との交流活動を取り入れた“地域密着型”の特徴あるシニアの2年制大学校として、NPO 法人大阪府北部コミュニティカレッジを設立、開講して1年が経過した。

25年4月10日、茨木市福祉文化会館文化ホールにおいて、第1期生285名を迎え入学式を行ったのに続き、翌週から早速5学科6教室において講座が始まった。

これまでには、茨木・吹田・豊中・高槻・豊能の6教室所在の地元自治体ならびに関係各位の絶大なるご支援、ご協力があったればこそと感謝している。

◇休む暇なく5月11日には早くも2期生募集のための「募集委員会」をスタートさせ第2期生講座の基本構想を決定した。

- ①1期生と同様歴史科2教室の5教科6教室とする。
- ②開講場所・曜日を1期生と重複しないようにする。
- ③受講料の改定（後日開催の理事会において検討の結果、入学金3,000円・受講料各年45,000円とする。
- ④大阪府を始め関係市町ならびに各社協、高大同窓会、SA地区会への後援と広報誌掲載の依頼、募集要項配布のお願いする。
- ⑤地元の梅花女子大学、追手門学院大学の後援名義と提携講座を引き続き依頼する。

◇一方教務部においては、教室運営の充実、円滑化を図るため、教務会議やアシスタント教務会議を実施するとともに教室の地域分散により教室長・教務・アシスタントで教室会議を随時開催して教室運営に反映させた。

なお、26年度2期生講座対応は、募集委員会等との連携により開講の学科、教室確保と募集人員の検討、各学科カリキュラムの検討と構築に力を注いだ。

また、26年度2期生に向けてアシスタントをクラス教務とし、2人体制で教室運営を行うよう改めた。

◇事務局としては、茨木・吹田、豊中・高槻・豊能にまたがる分散された教室との連携をどううまくって行くのかが課題であったが、各教室長の協力を得て各教室の諸費用などの毎月の清算を行ってゆくことでこの問題も解決することが出来た。

また、講座が始まると同時に、第1回定例総会の開催準備に入り、事業報告、事業計画、決算、予算書の作成、役員的人事、定款変更等多忙を極めたが少ない事務局員で合理的に業務をこなす努力がなされた。

その結果、講座が漸く軌道に乗ってきた6月12日に第1回通常総会を開催し、設立総会

時に選出された役員の方々に引き続き任期2年の本格的役員に就任願った。

- ◇夏休みを挟み2学期10月から第2期生の募集活動を本格化させ、「募集要項」を10月30日に完成、各市町ならびに高大同窓会、SA地区会等へは11月初旬から12月初旬にかけて市政だよりや広報誌に掲載願ひ、これに合わせるように12月6日に、1年を迎えて「講演と音楽のつどい」を開催、続いて第2期生募集のための講座説明会を12月7日千里中央「コラボ」において、“体験コーナー、展示コーナー”とともに開催したのを皮切りに9日吹田・10日、茨木・11日、豊能・12日、箕面・13日、高槻・14日、豊中で開催した。
- ◇講座説明会の終了後、12月19日から2期生の募集を開始、その結果19日の受付開始日の応募者数は256名で歴史科(茨木)美術科の2科が定員超過で即日抽選を実施した。なお、福祉科と野菜科は最後までPR活動に努めたが応募者が伸びず、野菜科は1年制で対応することとなった。
- ◇事業部事業では、4回シリーズの料理教室の開催を始め、助成金事業として8月に「子どもとふれあう夏休み教室」と「同行援護従事者養成研修」3月に「家庭介護実習講座」を開催、また、源氏物語の世界文化講座とバスツアー、ならびに「聞いて楽しい源氏物語」6回シリーズ、馬場章夫講演会2回シリーズなどを開催した。
- ◇広報部活動としては先ずは「ホームページ」の運用と拡充を図り、各学科の学習活動の紹介、事業の案内、実施報告の掲載を行う。また、「ONCCの概要」改訂版の作成、「ONCC NEWS No.2」を発行した。
- ◇3月4日の1期生1年目の終業式では、大阪大学平野俊夫総長の「いのちと医学」をテーマとした講演で、第2期生受講予定者及び一般市民の方にも参加頂き、総勢420余名会場満席で大好評の内に終了した。
- ◇26年度第2期生の募集ならびに受入れ体制については、教室、スタッフ体制その他1期生時の全て倍の確保が必要となり、特にスタッフの確保については最後まで苦しむ結果となった。また、福祉科、野菜科の定員割れは3期生以降の学科の見直し、新規講座立ち上げに関連して検討を始めなければならないと考えられる。

## □ 教務部 事業報告

25年度講座運営の円滑な推進・充実と、1期生2年目のカリキュラムの見直し・確定と2期生のための講座開講計画及び実施に向けての準備に傾注する。

### 1. 平成25年度開講した4市1町5学科6教室を基本として講座運営の充実化

- ・健康づくりと福祉を学ぶ科 定員40名 1期 茨木教室 受講 44名
- ・野菜づくりを楽しむ科 定員40名 1期 豊能教室 受講 41名
- ・自然とものづくりを楽しむ科 定員40名 1期 豊中教室 受講 50名
- ・歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科 定員40名 1期 高槻教室 受講 60名

応募者多数により茨木教室追加 1期 茨木教室 受講 45名

- ・キャンパスライフ（美術） 定員40名 1期 吹田教室 受講 45名

以上定員200名に対し1期受講生数 合計 285名

- ・アシスタント教務会議の実施 1回/月
- ・各教室クラス代表会議を実施 2回
- ・一部のクラスではクラブ活動を実施 2学科3クラブ
- ・教室運営の充実・円滑化を図る
- ・各科よりニュース記事を投稿して頂き、ONCCニュース2号を発刊
- ・各科1期2年目のカリキュラムの見直しを行う
- ・地域活動、同窓会交流などの見直しを行う
- ・教室運営の充実・円滑化を図る
- ・教室の地域分散により教室毎に講座修了後、講師・教務・アシスタントで教室会議を開催する
- ・1期生終業式と大阪大学平野俊夫総長の「いのちと医学」の講演会を開催（3月4日）する

### 2. 平成26年度2期生講座対応への取り組み開始

#### ①渉外部等との連携による講座の検討（開講の学科、教室と募集人員）

- ・健康づくりと福祉を学ぶ科 1期 茨木教室 → 2期 豊中教室 40名
- ・野菜づくりを楽しむ科 1期 豊能教室 → 2期 豊能教室 40名
- ・自然とものづくりを楽しむ科 1期 豊中教室 → 2期 茨木教室 40名
- ・歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科  
1期 高槻教室 → 2期 吹田教室 55名  
1期 茨木教室 → 2期（新）茨木教室 40名
- ・キャンパスライフ（美術） 1期 吹田教室 → 2期 高槻教室 40名 （計 255名）

#### ②各学科カリキュラム検討と構築（シルバーアドバイザー）講座、地域密着型講座、地域連携等の見直しを検討する。

- ・26年度開講予定地の行政、豊中市健康福祉部、豊中市社協の全面的な協力を取り付ける。

3. 教室運営の迅速化・効率化への取り組み（教室数、教務要員の増に伴う対応検討・実施）
  - ・26年度2期生に向けてアシスタントをクラス教務とし、2人体制で教室運営を行う。
  - ・学科教務はカリキュラム等の検討を行う。

## □ 事業部 事業報告

ONCCの活動内容を幅広く認知してもらい事業の目的である「地域とのふれあい・助け合い活動」を基本として事業活動をした。

### 【福祉事業】助成金事業

#### 1. 子どもとふれあう夏休み教室（子どもゆめ基金）

（独立行政法人国立青少年教育振興機構）

開催日 平成25年8月7日・8日・9日 全3日間

開催場所 8月7日・9日 茨木市福祉文化会館 8月8日・服部緑地公園

第1日(8月7日) 子ども対象講座 紙ヒコーキ・手作りおもちゃ教室 参加者 34名

保護者対象講座 講演 「子どもの心を育む」 参加者 25名

第2日(8月8日) 自然観察と草木遊び 参加者 子ども 38名 保護者 23名

第3日(8月9日) 科学実験 参加者 子ども 37名 保護者 28名

\* 親子同伴の参加で、コミュニケーションがとれる場となったのがとっても良かった。

#### 2. 大阪府同行援護従業者養成研修（一般課程）

（キリン・シルバー「力」応援事業助成金）公益財団法人キリン福祉財団

開催日 平成25年8月26日・27日・29日・30日・31日 全5日間

開催場所 豊中市立生活情報センター暮らし館 参加者 25名

第1日(8月26日) オリエンテーション・障がい者の人権・同行援護の制度

第2日(8月27日) 障がい疾病・理解・情報支援と情報提供

第3日(8月29日) 代筆・代読の基礎知識・同行援護の基礎知識

第4日(8月30日) 基本技能・講義と実技

第5日(8月31日) 応用技能・講義と実技

\* 視覚障がい者と障がい者全般の方の心理が理解できた。

#### 3. 無理なく出来る「家庭介護実習」

大阪府福祉基金地域福祉振興助成金事業

開催日 平成26年3月10日・11日・12日 全3日間

開催場所 豊中市救急医療センター 豊中看護専門学校 参加者 35名

第1日(3月10日) 午前 高齢者介護の現状・寝床・寝具の整え方

午後 体の移動・横を向く・ベッドに座る・衣服交換（着脱）実技

第2日(3月11日)実技中心の講義 体の清潔・洗髪・背中(熱布浴)足浴・排せ介護

第3日(3月12日)車いすを利用して実技・歩行介助・床ずれ介助

\*是非参加したいので、今後このような講座を多く計画してほしいとの声があった。

## 【一般事業】

### 1. 料理教室 4回シリーズ “作って食べて、楽しくおしゃべりをしよう”

第1回 平成25年5月22日 和食料理 参加者 21名 茨木市男女共生センター

第2回 平成25年7月17日 フランス料理 参加者 24名 //

第3回 平成25年9月21日 野外料理 参加者 23名 ふれあいサロン「あすか」

第4回 平成25年12月18日 そば打ち 参加者 24名 茨木市生涯学習センター

\*楽しく料理をつくり、共につくることの喜びを味わい、大いに盛り上がった

### 2. 源氏物語の世界 文化講座とバスツアー

開催日 平成25年8月19日・20日 2日間 参加者 80名

開催場所 豊中市立蛍池公民館

8月19日 午前 講義「紫式部越前下向」(DVDの映写と解説) 加藤正彦教授

午後 講義「源氏物語の世界」 たつみ都志教授

8月20日 宇治十帖ゆかりの地を巡るバスツアー 参加者 40名

たつみ都志教授 同行解説 講義 「宇治十帖」について

\*皆さんは企画・運営に二日間とも満足されていた。

### 3. 馬場章夫の講演会

開催日 第1回 平成25年9月14日「南太平洋 石貨の島ヤップ島」

参加者 45名 (命がけの石貨づくり)

第2回 平成25年10月12日「シベリア・オイミヤコンで極寒体験」

参加者 69名 (マイナス71.2℃の世界)

開催場所 豊中市立ルシオーレホール

\*永年のラジオパーソナリティとしての話題と探検家として世界中を旅された体験の講演で、内容の面白さと話術が相俟って大好評だった。

### 4. 「聞いて楽しい源氏物語」シリーズ(その1)

開催場所 豊中市立ルシオーレホール

期 日 平成25年10月～平成26年3月(6回) 参加者 72名

第1回平成25年10月 第1帖～第6回平成26年3月第6帖までの6回

\*受講者は先生の解説に魅了され毎回大満足された。

### 5. 1年を迎えて「講演と音楽のつどい」

開催日 平成25年12月6日

開催場所 茨木市福祉文化会館文化ホール 参加者 368名

講演 馬場章夫の講演 「好奇心と行動力が支えたわが道」

音楽会 千秋昌弘さんと男性合唱団「昴」

曲名「アメイジンググレイス、母なるヴォルガを下りて」その他

\*会場満席の皆さんは講演と男性合唱団すべてに満足され拍手喝采であった。

#### 6. 初春「文楽鑑賞会」(人形浄瑠璃)

開催日 平成26年1月18日

開催場所 国立文楽劇場 参加者30名

人形解説 講師 人形使師 吉田一輔

人形浄瑠璃の歴史・人形について「頭」のからくりや、

手・足の動きについて等の解説をうける

\*義太夫の迫力、三味線の音色の素晴らしさを堪能された。

### □ 渉外部 事業報告

募集委員会・教務部・事業部・事務局等と連携を取りながら、教室の選定と人材確保に努めてきた。

1. 関係各市町及び公的施設関係者のご支援とご配慮をいただき、また、民間施設ならびに地域関係者のご協力を得て、1期生教室の継続使用と2期生の教室の選定に注力した。
2. 2期生の教室と学科を次の通り決定した。
  - 豊中教室「福社会館」他・・・健康づくりと福祉を学ぶ科
  - 豊能教室「吉川自治会館」・・・野菜づくりを楽しむ科
  - 茨木教室「福祉文化会館」他・・・自然とものづくりを愉しむ科  
「ローズWAM」他・・・歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科
  - 吹田教室 「ディオス1番館M2」・・・歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科
  - 高槻教室 「高槻南スクエア」・・・キャンバスライフ(美術)科

### □ 広報部 事業報告

「募集委員会」および教務部・事業部・事務局と連携を図りながら、下記の通り活動した。

1. 「ホームページ」の運用と拡充(平成24年11月開設・アクセス 15,000件)
  - ・第1回通常総会の報告掲載
  - ・5学科・6教室の学習活動の紹介ページを掲載
  - ・その他事業の案内と実施報告の掲載
2. 行政、大学、諸団体への説明資料として、「ONCCの概要」・「改訂版」を作成(9月・3月)
3. 各市町「広報誌」への掲載依頼の記事モデルの作成。(8月)

#### 4. 第2期生募集の広報資料の作成

- ・「2期生（26年度）年度制講座・募集の案内」（9月）、「同、受講生募集チラシ」（10月）
- ・「募集要項」の作成（10/末）、「学科別カリキュラム」冊子の編集（11月）

#### 5. 「ONCC NEWS No2」の発行（3月）

## □募集委員会 事業報告

平成25年5月11日に「募集委員会」（委員16名）をスタート、26年度（2期生）年度制講座展開の工程表に基づいて、各部門と連携して精力的に活動を推進した。

#### 1. 第2期生講座の基本構想を決定

- ・「歴史科」の応募者動向と講師対応から「5学科・6教室」（歴史科2教室）に変更した。
- ・場所、曜日は、1期と重複しないように進めたが、「歴史科」第2教室が茨木になった。
- ・受講料は1期生の運営状況から改定が必要と判断、常任理事会・理事会に提案して承認を得た。

#### 2. 府・関係市町および社会福祉協議会と高大同窓会・SAの関係団体に対して、「ONCCの案内」「受講生募集チラシ」・「ONCC NEWS」等で、各担当役員を中心に支援依頼と併せて後援名義と広報誌掲載の依頼を実施。（各市町広報誌10～12月掲載）

- ・関係行政（11行政）、社会福祉協議会（3団体）…9/初→9/26 承認完了
- ・高大同窓会（8団体）、SA連協・北部地区SA（6団体）…9/初→9/20 承認完了

#### 3. 地元の梅花女子大学・追手門学院大学との提携講座と後援名義の依頼。…8/31 承認

- ・追手門学院大学は、経済学部後援から大学の後援に変更をいただいた。

#### 4. 「募集要項」の作成と配布活動

10/31 完成 20,000部、11/1 配布の仕分け作業。（各講座の地元PRチラシを添付）

各市町役所・出張所、各公共施設、関係地域同窓会・SA等に配布、備付PRを依頼。（11/初）

#### 5. 「ホームページ」による募集PR

「受講生募集チラシ」「募集要項」・「学科別カリキュラム」・「講座説明会」など一連のPR掲載。

#### 6. ミニコミ誌によるPR（マチゴト豊中池田・読売ファミリー大阪版・キツツキ21など）

#### 7. 「講座説明会」の日程・会場の決定と「学科別カリキュラム」の作成

12/7～12/14の間、豊中市（千里中央）、吹田市、茨木市、豊能町、箕面市、高槻市、豊中市で開催（参加者144名）。初日の千里中央コラボでは、体験・展示コーナーを開設（参加者89名）。

#### 8. 募集受付期間（12/18～1/30）の開始日の応募書類到着分256名、歴史科（茨木）・美術科の2学科が定員超えて即日抽選を実施。

#### 9. その後「福祉科」「野菜科」の応募者が伸びず、各種の追加PR活動も成果が得られなかった。

対応策として、野菜科は1年制に変更して、他3科／4教室の定員増を図った。

## \*5 学科・6 教室と受講生数（236名）

○ 健康づくりと福祉を学ぶ科	豊中教室	25名
○ 野菜作りを楽しむ科【1年制】	豊能教室	12名
○ 自然とものづくりを楽しむ科	茨木教室	44名
○ 歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科	吹田教室	60名
○ 歴史・文学を彩る“人々と心”を学ぶ科	茨木教室	50名
○ キャンパスライフ（美術）科	高槻教室	45名

10. 2月1日「第8回募集委員会」開催、25年度活動の総括を行い、次年度の課題を確認した。

## □ 事務局 事業報告

平成25年4月10日に入学式を行った。285名の第1期生が入学した。翌週よりそれぞれの学科で講座が始まった。当NPO法人にとっては初めての授業であり、その後順調に講座が行われた。しかし、事務局にとっては、茨木、吹田、豊中、高槻、豊能にまたがる分散された教室との連携をどううまく取って行くかの試練の始まりであった。各教室における諸費用とその連絡体制をきっちり組むことが肝心であった。各学科宛の仮払い方式を取り、各クラス長の協力で毎月の精算を行って頂くことで、この問題も解決することができた。

この講座開始を見届ける間もなく、第1回定例総会の準備に入った。

各部の報告書のまとめ、各部の事業計画のまとめ、そして決算書及び予算書の作成である。昨年度収入が殆どなく赤字決算であったが、今年度は受講料収入があり何とか本格的に近い予算を組むことができた。

25年度は第1回の通常総会であり、本格的に当NPOを稼働するための大きな課題を事務局として背負っていた。

- ① 役員の人事
  - ② 昨秋に豊能町と約束した定款変更
  - ③ 25年度予算
- である。

- ① 役員の人事に関しては、昨年の設立総会の折に選出された方々が今期からも任期2年の本格役員に就任して頂いた。25名の理事と2名の監事が理事会で推薦され、総会において満場一致で承認された。
- ② 設立1年目にしての定款変更を行わねばならなかったが、これは野菜作りを楽しむ科において実習農地を借りるため、大阪府のみどり公社との契約、またそれを仲介する豊能町との約束で、定款に「農業を支援する人を育成しその地域の振興を図る事業」と明記する必要があるからである。総会へ「この部分の変更」と高槻教室が軌道に乗っているため、そこへの従たる事務所の明記を提案した。満場一致で承認を受け、理事長に定款変更に伴う一切の委任も取り付けて頂いた。

そして、総会にて承認後、変更届けを大阪府府民文化部府民協働課へ提出した。しかし提案した条文のみの変更にとどまらず、それに付随する他の条文も変更するよう指摘を受け、またその言い回しに関しても様々な指導を受け、その内容を6月の理事会にて報告、承認を頂いた。そして、最終的に



受付が完了したのは8月の下旬であった。その間何回も大阪府庁咲洲庁舎へ通い、担当者と面談の場を持った。

その後10月までの一般縦覧の期間を経て、10月22日に大阪府の認証を受けることができ、直ちに大阪法務局北大阪支局へ登記申請をして、10月22日施行と新定款に記載することができた。

- ③ 予算作成に関しては各学科において大体の必要費用を提出して頂き、それを経理部が整理、まとめという作業を経て作成を完了した。また経理部においては毎月各学科集計表を作成し、それぞれの学科担当者の経理的進捗状況の把握に大いに役立った。
- ④ 三つの課題をこなしながら、第2期生の募集業務に11月から入り、25年12月19日の受付開日を迎えた。歴史科(茨木教室)、美術科においてはすぐさま定員オーバーになり、抽選を行わねばならなかった。その後、受講料の入金チェック、入学者名簿の作成も1月中ごろには終わることができた。
- ⑤ これと並行して、1期生の2年次への進級の手続きを進めた。100%の進級を期待していただけに、その入金遅れに気がつかいながら、各学科の教務担当者への連絡と、来期の予算編成の作成にて重荷を背負うことになった。その後編入者の受付等の業務を経て、何とか最終的に26年度1期生、2期生が揃うことになったのは3月に入ってからであった。
- ⑥ この後、ようやく26年度2期生の入学式準備に入り、受講生台帳・受講生証・名札等を揃えることになり、これも短期間で仕上げであったが、3月一杯にてすべての書類をまとめることができた。
- ⑦ この間、25年度の決算書の作成も行ってきたが、これは毎月の各学科集計表の作成、3か月毎の試算表の作成もあり、長時間を要することなく纏める事が出来た。経理部の毎月の作業の成果であった。
- ⑧ 理事会は毎月1回定期的に行い、重要事項の審議決定と報告事項の承認を経て、各部の執行を確認した。またその理事会前には常任理事会を行い、各部の詳細を討論した。